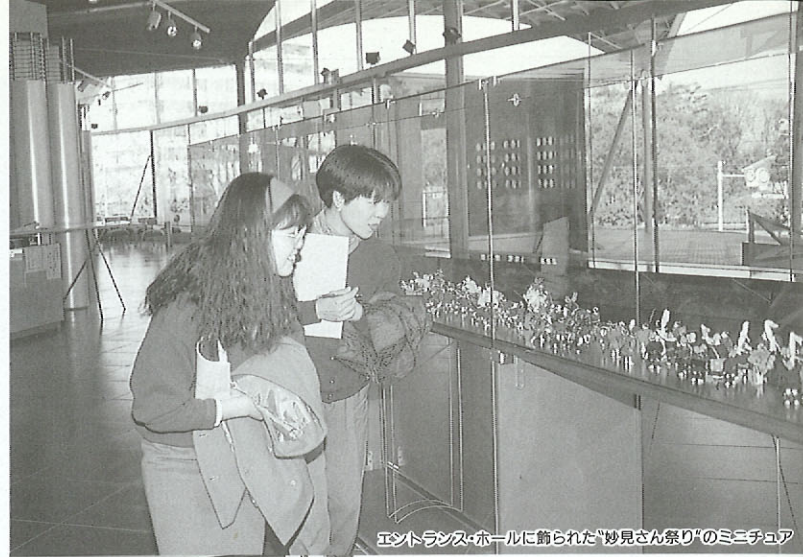




アーケードを撤去してスッキリ、八代の「ミュージアム通り」



エントランスホールに飾られた「妙見さん祭り」のミニチュア



光ファイバーで作った星座。足元も美しく



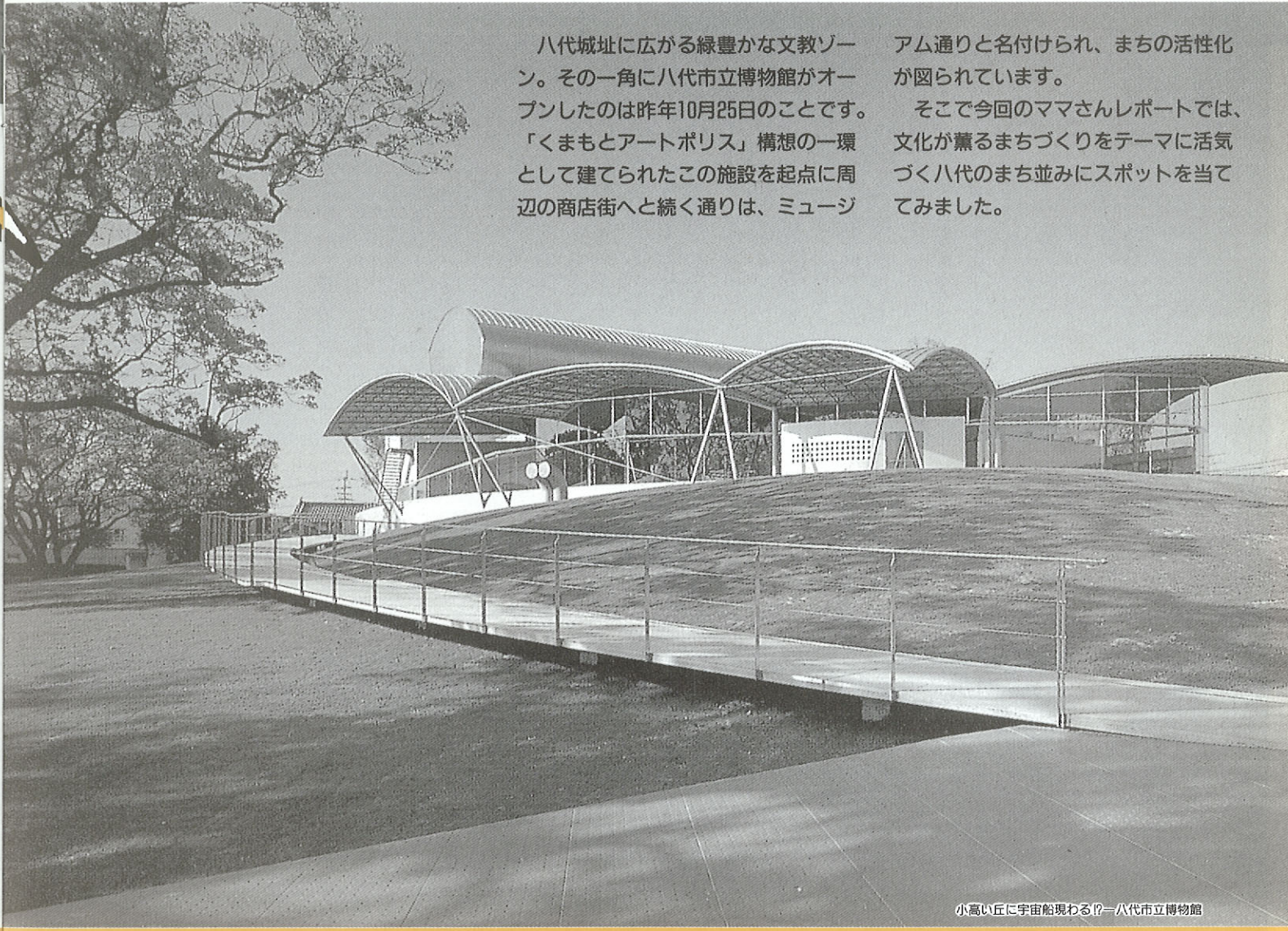
特別展示室で松井文庫の所蔵品に見入るママさん



なめらかな曲線。グランドピアノのようなギャラリー B。中では展示会やコンサートが開かれる



音に反応して水を吐き出すひょうきんなカッパ



小高い丘に宇宙船現る!?—八代市立博物館



文化が薫る、 未来都市に向けて —八代市立博物館を中心に広がるまちづくり



八代城址に広がる緑豊かな文教ゾーン。その一角に八代市立博物館がオープンしたのは昨年10月25日のことです。「くまもとアートポリス」構想の一環として建てられたこの施設を起点に周辺の商店街へと続く通りは、ミュージ

アム通りと名付けられ、まちの活性化が図られています。そこで今回のママさんレポートでは、文化が薫るまちづくりをテーマに活気づく八代のまち並みにスポットを当ててみました。

人が、まちが動いている八代を歩いてみませんか —八代通町ミュージアム通り

阿蘇在住の私にとって日ごろあまり足を運ぶことのない八代の町。ここで私は素敵な場所を発見することができました。「八代通町ミュージアム通り」の名で親しまれている商店街です。そして、その一角にギャラリーBと名付けられた不思議な建物がありました。グランドピアノのような外観。近代的な内装の中に収められているのは今から百年以上も前に作られた観音様。現代感覚と昔ながらの伝統とが相まった空間です。ここは、写真や絵画などの展示場として、またミニコンサートの会場としても利用できます。使用料も一日千五百円と格安。Bが意味する「八代」無限の広がり。を基本コンセプトに、文化情報の発信地として、また人々のオアシスとしても期待したいところです。

さて、歩道を歩くときひょうきんなカッパの親分が迎えてくれます。大きな音に反応して水を吐き出す様子は笑いを誘います。またアーケードを撤去したことで、夜はライトアップされた街路樹が風に揺れる様子や星の輝きも見られます。足元にある光ファイバーの小さな光の点が、いくつも連なって線になり星座を形づくっているのも美しく、歩行者をつい立ち止まらせてしまうほど素敵です。

今、八代ではギャラリーBをはじめ、まちづくりへの人々の熱意や努力がそれぞれ点として発生し、面への大きな広がりを目指しているのではないのでしょうか。人々が、そして街全体が動いている。そんな印象を抱きながら八代を後にしました。みなさんも足を運んで下さい。きっと素敵な発見があると思いますよ。

注 口を横にする。こゝろ。無限大を意味する記号になる。

美しい緑とメタリックな建物との絶妙なバランス —「未来の森ミュージアム」・八代市立博物館

坂本 崇子さん(青森県北町) まるで小高い丘に舞い降りた宇宙船のような形をした八代市立博物館。このメタリックな建物と、芝や木々の緑とが醸し出す雰囲気、公募で決まった「未来の森ミュージアム」の名称にあまりにもピッタリなので驚きました。設計は伊藤豊雄氏。アートポリス2の参加作品です。建物の威圧感を軽くするために人工的に丘を造ったところがこの設計のポイント。その丘を登った二階がエントランス。一階は盛り土によって埋められた形です。

さて、博物館の中に入ると、まず「妙見さん」の名で親しまれている妙見宮祭礼信仰行列の様子をいきいきと再現した六百十五体の模型が目に入ります。奥に進むと特別展示室があります。私たちが訪れた時には「松井文庫の精華—その歴史と美術」と題した特別展が開催されていました。ここでは年二回、博物館が主催する企画・展示を行うほか、国や県の巡回展の開催。学校、各種市民団体主催による作品の発表・展示を予定しているそうです。

また一階には、二つの常設展示室があります。第一展示室は、郷土八代の歴史と生活の様子を紹介する展示室。そして、第二展示室は、松井文庫所蔵の美術工芸品が展示されています。多くの所蔵品があることから毎月テーマを決めて展示していく予定で、オープン当初は「能」の衣装が室内一面に飾られていました。月に一度通ったとしても、見終わるまでには十年以上かかるという所蔵品の豊富さと質の高さを誇る松井文庫所蔵品。この数々を鑑賞することができるわけですから、これから足繁く通うことになりそうです。

河津 弘美さん(阿蘇郡阿蘇町)